

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

[評価実施概要]

事業所番号	4070702677		
法人名	有限会社 福の里		
事業所名	福の里グループホーム 結		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区楠橋上方2丁目18－37 (電 話) 093－619－2970		
評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4－6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年5月28日	評価確定日	平成21年7月7日

[情報提供票より] (21年 5月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 14人, 非常勤 7人, 常勤換算 10.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 平屋建て
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	29,000 円	その他の経費 (月額)	14,000 円
敷 金	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (87,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 300 円	昼食 500 円	
	夕食 500 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり	1,400 円	

(4) 利用者の概要 (5月 18日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	9 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人健美会佐々木病院 ・ ひだか歯科医院
---------	------------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

福の里グループホーム結は、八幡西区の見晴らしの良い小高い住宅地に位置しており、広い敷地にはデイサービスやヘルパーステーション、福祉用具のレンタルショップ等が併設されている。ユニット間はウッドデッキでつながっており、気軽に外気を感じることができる開放的な作りとなっている。入居者と職員の共同作品が掲示され、入居者一人ひとりの思いを大切にする職員の配慮を感じることができる。併設のデイサービスやヘルパーステーション、また近隣幼稚園との交流も日常的に行われており、入居者の楽しみとなっている。事業所独自の理念「自由な生活」の実践に向けて、入居者一人ひとりの生活リズムを大切にしたい、本人本位のゆとりある支援を目指しているグループホームである。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
重点項目①	前回評価での改善課題より、研修計画の作成へ向け、中堅職員をリーダーとした取り組みが始まっている。またアセスメントの充実についても、家族会の機会を活用しながら、取り組みが始まりつつある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) ユニット会議及び家族会や運営推進会議に取り上げ、検討会議を開催し、全職員で自己評価の課題について、一つひとつの取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月に1回定期開催されており、行事予定やホームの状況、消防訓練等について報告や意見交換がなされている。呼びかけは行っているが、現状として入居者家族や地域代表の定期的な出席が課題となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部8, 9) 毎月「福の里便り」を発行し、日々の暮らしの状況や行事予定・報告、受診状況などを担当職員が詳細に記述し、家族に伝えている。年に1、2回、食事をかねた家族会が法人施設や公民館などで開催されており、アンケートを活用して、積極的な意見交換となるよう工夫を行っている。意見箱を設置し、家族の意見・要望の収集に努めており、できるだけ速やかな対応に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 自治会に加入し、回覧板を通じた地域への参加が行われている。地域や近隣幼稚園の行事(夏祭り・運動会・文化祭等)に継続して参加し、交流が育まれており、入居者の楽しみとなっている。ごみの収集日には、職員によるごみ置き場の清掃が行われており、地域貢献へ取り組む姿勢を感じることができる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念とともに、「自由な生活の支援」に向けたホーム独自の介護理念が創られている。法人の理念、運営の方針ともに、地域との関わりを重視した内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所や各ユニットの居間に理念を掲示し、毎日朝礼・終礼にて理念の唱和を心がけている。また、運営推進会議や家族会等でも理念について触れ、理解と共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板を通じた地域への参加が行われている。地域や近隣幼稚園の行事(夏祭り・運動会・文化祭等)に継続して参加し、交流が育まれており、入居者の楽しみとなっている。ごみの収集日には、職員によるごみ置き場の清掃が行われており、地域貢献へ取り組む姿勢を感じることができる。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果については、ユニット会議にて運営者・管理者・職員による検討が行われ、入居者の日々の暮らしの向上に繋がるよう、具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回定期開催されており、行事予定やホームの状況、消防訓練等について報告や意見交換がなされている。呼びかけは行っているが、現状として入居者家族や地域代表の定期的な出席が課題となっている。	○	継続して家族や地域代表への働きかけは行われているが、定期的な出席にはいたっていない。開催内容の工夫も含め、今後の取り組みに期待します。

福の里 グループホーム 結

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会の月1回の会合を通じて、行政職員との意見交換が行われている。今後はさらに連携を深め、サービスの向上に活かしていきたいと考えている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修に参加し、必要な場合に活用できるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「福の里便り」を発行し、入居者一人ひとりの日々の暮らしの状況や行事予定・報告、受診状況などを担当職員が詳細に記述し、家族に伝えている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1、2回、食事会をかねた家族会が法人施設や公民館などで開催されている。アンケートを活用して、積極的な意見交換となるよう工夫を行っている。意見箱を設置し、家族の意見・要望の収集に努めており、できるだけ速やかな対応に努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者・職員の馴染みの関係の重要性を認識しており、基本的に職員の異動は行われていない。やむを得ず離職が発生した場合にも、引き継ぎ期間に充分に配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用にあたって、性別や年齢などで採用の対象から排除することは無い。面接時には、チームケア・協調性についての話をしている。職員の能力が充分に発揮できるよう、また意欲を大切に職場環境づくりに努めている。		

福の里 グループホーム 結

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動	グループホーム協議会等の研修に参加し、毎月のユニット会議の中で理解の浸透に努めている。虐待や身体拘束についての資料回覧や勉強会を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	○職員を育てる取り組み	年間計画の中での研修実施に向けて、中堅職員をリーダーとして取り組みが始まっている。	○	限られた職員体制の中で、難しい面もありますが、実践にむけての取り組みに期待します。また研修記録・報告の整備により、情報の共有・確認にもなると考えます。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	○同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入している。積極的に同業者との情報交換・技術の講習・勉強会の機会を持ち、サービス向上に向けたグループホーム間の連携や、相談できる関係作りを目指す取り組みがある。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設するデイサービス利用を経ての入居の移行が多い。日常的に行事や交流があり、相互に訪問をしながら顔馴染みの関係作りが行われている。入居前に訪問・見学を実施し、安心して入居できるように配慮を行っている。		
い					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の行事や馴染みの場所を訪れた時など、思い出話を聞かせてもらうこともあり、共感できる場面・関係を大切にしている。日々の暮らしの中で、一人ひとりの希望や能力に応じた役割を担ってもらい、感謝の言葉を伝えている。		

福の里 グループホーム 結

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握	入居者の日常的な会話、雑談等から、職員全員で入居者の状況を観察し、希望や意向の把握に努め、情報を共有している。また家族から生活歴の把握等、アセスメント情報を得るように努力している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画	医師や看護師の意見も取り入れながら、担当者会議を開催し、家族の同意を得ている。	○	地域密着型としての、個別・具体的な介護計画作成に向けて、アセスメント様式の工夫等により、更なる充実が必要であると考えます。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	○現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月ごとに定期的な見直しを行い、身体状況等の変化に応じて職員間で情報交換を行い、見直しにつなげている。	○	本人・家族の意向を大切にしながら、状況の変化等に対応するためにも、記録の整備・工夫による充実により、関係者全員での共有と確認が必要であると考えます。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援	本人・家族の希望や状況により、医療機関への受診支援などに対応している。併設するデイサービスとの連携により、合同運動会が開催されるなどの交流があり、馴染みの関係の継続にも繋がっている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
り					
21	45	○かかりつけ医の受診支援	入居者・家族の希望するかかりつけ医を大切にしながら、主治医を決めており、適切な医療が継続して受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

福の里 グループホーム 結

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に「医療連携体制に関する覚書及び同意書」にて、重度化した場合や終末期のあり方について家族と話し合い、医療との連携や方針を明らかにしている。本人・家族の思いを大切にしながら、今後も話し合いを重ねていきたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底	会話や接遇などの内部研修が行われおり、人生の先輩に対する尊敬の意をもって接するように心がけている。個人情報の取り扱いについても法令遵守に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	○日々のその人らしい暮らし	個別の生活リズムを乱さないように、柔軟に支援している。それぞれの入居者の思いに沿った過ごし方(散歩・日光浴・食事会・買い物など)に柔軟な対応がなされ、ゆとりを持って一緒に過ごせるように努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援	できる範囲で職員と一緒に食事の配膳や片付けを行っている。入居者の食の好みや反映された献立が作成され、四季折々の旬の食材を一品加える等、食卓にも工夫がみられる。行事の一環として、時には近隣の公園に弁当を持って食事に出かけたり、お菓子作りなど、食を楽しむ支援が行われている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	○入浴を楽しむことができる支援	入居者の身体に負担とならないように、入居者一人ひとりの体調や希望に添って柔軟な入浴支援が行われている。毎日の入浴が可能であり、プライバシーも確保されている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

福の里 グループホーム 結

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味等、得意分野を活かし職員と一緒に貼り絵・折り紙・習字・玄関の花の手入れ・水やり等を行いながら、生き生きと生活できるような場面作りを支援している。日常的に買い物や散歩などに出掛け、閉じこもることなく気分転換となるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や入居者の気分・体調に合わせて、事業所周辺の散歩を日常的に行っている。また、買物・通院・季節毎の花見・食事会・公園へ手作り弁当を持って行くなど、機会も多く、楽しく外出できる様に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉や玄関など、日中鍵をかけないケアを実践している。見守り・声かけ・所在確認により、入居者の安全に配慮しながら、自由な暮らしを支援している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとに、年2回消防訓練が実施されている。また地域消防団とも連携をとり、災害時に備えている。居室入り口には、緊急時の搬出方法が記載されている救護マークが身体状況により色分け表示されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立が作られており、入居者一人ひとりの嗜好や栄養バランス、調理方法や摂取カロリー等に柔軟に対応している。食事・水分摂取量を記録し、健康管理に活かされている。		

福の里 グループホーム 結

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	天窓からやわらかな光が差し込み、またユニット間をつなぐウッドデッキにより、開放的な空間作りがなされており、各所に季節感を感じられるように季節の花が活けてある。障子によって仕切られている和室には、座卓やソファが配置され、居心地の良い空間となっている。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	本人・家族の希望により、馴染みの物が持ち込まれており、居心地のよさに配慮がなされている。窓には内障子があり、落ち着いた雰囲気を醸し出している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			